



平和や豊かな暮らしの大切さについて

糸魚川中学校
伊藤 さゆりさん



私は、広島を実際に訪れて、原爆ドームが高層ビルの中にぽつんと建っているのが印象に残っています。きっと78年前の広島も現在のように活気があったんだろうと感じました。

私は、平和＝豊かな暮らしであり、その二つが揃って初めて発展すると考えています。78年前、広島への原爆投下で平和が奪われ、同時に豊かな暮らしも奪われました。約14万人が死亡し、半径2キロメートル以内の燃えるものは全て焼失した原爆投下は、もう二度と起こしてはいけません。

「平和」と「豊かな暮らし」はどちらもとても大切で、両方も絶対欠けてはいけないものだと思います。学んできたことを色々な人に伝えて、原爆や戦争について知ってほしいと思いました。



平和記念式典に参列して

糸魚川中学校
長谷川 紗花さん



私は、8月6日の平和記念式典に参加してきました。平和記念式典では、核兵器と戦争をなくすことの意味や平和の大切さを実感できました。また平和宣言では、大勢の人々の命の重さを知ることや、「平和文化」を世界中に広める取組を行っていることが分かりました。

今年の5月に行われたG7広島サミットでは、各国首脳が広島を訪れ、核兵器のない世界と世界平和の実現が目標であることを再確認した場となりました。核兵器を使うと多くの人々の命を奪ってしまいます。核兵器は決して使ってはいけないものと感じました。

今後、同じことを繰り返さないように、そして今回学んだことを家族や学校の人々に伝えられるように、もっと平和について学んでいきたいです。



被爆体験の講話をお聞きして

青海中学校
小田嶋 陽菜さん



私は8月5日、被爆された方に当時の状況や、原爆についてのお話を伺いました。

昭和20年8月6日午前8時15分、原子爆弾が投下され、14万人の方々が亡くなりました。また、生き残った方も放射線による被害に苦しみ、「なぜ、自分は生き残ったのか」という罪悪感を感じたと話します。

講話をしてくださった方は、日本の加害の面を忘れてはいけないと話していました。原爆でたくさんの被害が出たけれど、自国も戦い、他の国の人たちを傷つけたことを忘れてはいけないと強く感じました。

一発の原爆が無差別に命を奪い、生き残った方の運命を変えたことを知り、戦争は加害者にも被害者にもなるのだと思いました。二度と同じ過ちを繰り返さないためにも、原爆のことを他の人に伝えていきたいです。